

山陰門推協会報

第21号

ともしび

発行
浄土真宗本願寺派・山陰教区
門徒推進員連絡協議会
代表者 齊 藤 寛

事務局
〒690-0002 松江市大正町443-1
本願寺山陰教堂内



2023(令和5)年度 第4連区 門徒推進員実践運動研修会

内 容

2～5頁 …… 寄稿
6～7頁 …… 門徒推進員という生き方
8頁 …… 【理念】
門推役員名簿・お知らせ

ご勝縁をいただいて

山陰教区教務所長 晨 利 信

昨年四月一日付で、山陰教区教務所長を拝命いたしました。皆さまどうぞ宜しくお願い申し上げます。

本年度は『親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要』が厳修され、全国各地より七万五千人の方々のご参拝になり、山陰教区からも約一三〇〇名のお参りをいただきました。満堂となりました御影堂で共にお念仏申し、声高らかに唱和させていただきました御縁でありました。

また、期間中には「第七回 全国門徒推進員のつどい」が開催され、全国より門徒推進員が集まり、久しぶりに対面での意見交換など朋友との有難いひとときを過ごされたことでありましょう。

さて、六月三〇日に、「門徒推進員という生き方【理念】」が策定されました。「連研」や「中央教修」を経て、単に仏教用語を学び、教学の知識を身につけることにとどまらず、人生の中で「み教えに問い、聞き、歩む」日常生活を送っていただきたいという願いです。それが「み教えを依りどころに生きる」ということでしょう。と示されたことを私たちは重く受け止めなければなりません。

今秋十月二十七日から二十八日に玉造温泉を会場に、「第四連区門徒推進員連絡協議会実践運動研修会」開催に向け準備を進めております。担当教区として多くの皆さまにご参加くださいますようお願い申し上げます。

共に学び、先人から受け継いできたお念仏のみ教えを次の世代、また次の世代へと繋いで行くとともに、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に努めてまいりましょう。

会長就任挨拶

大田東組 西楽寺 齊藤 寛

令和五年五月二十四日山陰
教区門徒推進員連絡協議会理
事会に於いて福原会長が辞意
をする旨の動議があり、副会

長でありました私にその任を
託されました。理事会の承認
を頂いて、残任期間の一年を
担わせて頂くこととなりました。
副会長に会計の今岡昌紀
さん（神門組 願楽寺）、そし
て会計に事務を担当して頂い
ています岸本邦夫さん（出雲
組 東林寺）に兼務頂くことと
なりました。

私ごとときとも思いつつ、拠
り所となる法灯に照らされる
身の自見の促しに遇い、共々
に歩む道を領きながら職責を
全う出来ればと願うばかりで
ございます。

本会の活動、運営にあたり、
理事各位そして会員の方々の

ご助言、ご協力をお願い申し
上げ就任のご挨拶とさせて頂
きます

また、去る九月十日・十一
日山口県湯田温泉で行われた
第四連区門徒推進員連絡協議
会実践運動研修会に出席致し
ました。多くの参加者による
研修会、話し合い法座、そし
て懇親会と山口教区の方々に
よる企画はチームワークのも
と楽しさもあり、充実した研
修会でした。

この第四連区門徒推進員連
絡協議会実践運動研修会を来
年度、山陰教区で行う年度と
なります。来年度、どの様な
体制が成されるのか課題があ
ります。理事の方々そして各
会員の方々のご参加、ご協力
を頂きたいと願うばかりでご
ざいます。

寄稿

共に歩もう



連研から門徒推進員、 そして真の念仏者へ

松江組 本誓寺住職

乙部 信知

松江組ではこの三年間、新
型コロナウイルス感染症の影
響で連続研修を開催できま
せんでした。受講者の方に何
あつてはいけないとの判断で
したが、ご迷惑をおかけしま
した。そして、今年度は五月
に新型コロナウイルスが第五
類に移行したことや、その他
状況を踏まえ開催することが
できました。

今回松江組の連研に参加し

たのは一〇人。それぞれ話し
合い法座を通して浄土真宗の
学びを深めたことでしょう。
この後京都で中央教修に行き
門徒推進員になる方、迷って
いる方もいると思います。

ところで門徒推進員と聞く
と何か営業職のように聞こえ
るかもしれませんが。お寺に人
を集めないといけないと感じ
るかもしれません。しかし、そ
の様なことはありません。ま
た連続研修の受講終了証を貰
って、門徒推進員になってそ
れで終わりというわけでもあ
りません。

本来の目的は、この私自信
が真の念仏者になることで
す。浄土真宗の門徒である
ことを自覚しお念仏を頂き、
日々に感謝しご恩報謝に勤め
る。それが門徒推進員の生き
方の一つです。今後は御同行
として、私たちとともに真の

念仏者になることを目指し歩んでいきましょう。

ご同朋の社会をめざして

大田中組 連研担当

高 津 眞 悟

仁摩組、大森組が合併して大田中組となりました。それぞれ連研をしていましたが、大森組を踏襲しています。一九八〇年頃第一期を行いしばらく休会していました。

一九九五年六月に前門様組巡教があり、当時西性寺龍善徳組長の発案にて札参りとして念仏奉仕団にて上山、何か記念事業をと協議の結果、組連研の再会と決しました。翌九六年四月より毎月一回、十一月は報恩講のため休座なれど各寺参拝を、会期は二年として今回に至っています。十年程は参加者を募り、会所持

ち回りで開催しました。

旧大森組は、十二ヶ寺、地区内の住民千二百人という小さな組、新たな会員発掘も難しくなり、参加したい方は何期でもという事で新会員の方が時々ありという実態です。会員も固定化したので会所も同じとしました。

小さな会ですが、御正忌参拝、ご旧跡めぐり等も行ってきました。

コロナ禍でしたが、少人数又参加の皆さんが開座して下さいとのことで一度も休まず実施することが出来ました。

御同朋の社会をめざしてがテーマですのでいろいろな事をテーマとしてとりあげています。

真実の教えに出会い、安心出来る場、楽しい場であり続けたいと思います。

令和五年度 門徒推進員連絡協議会 総会・研修会

江津組 光善寺門徒 長 井 正 樹

令和五年度山陰教区門徒推進員連絡協議会の総会・研修会が七月二十三日、山陰教堂で開催されました。総会では、令和四年度事業・決算報告及び令和五年度事業計画・予算等の報告があり、原案どおり承認されました。

世界」という気持ちで生活しています。お聴聞することで、凡夫である私の姿に気づかされます。そんな私を、仏さまは本願力回向で煩惱を抱えたまま、私をお浄土に往生させていただき仏さまにしてください。

続いて研修会に入り、市野覚生先生から「お念仏を申す生活」と題し、法話をいただきました。私の生活を振り返ると、自己中心の私は、むさぼり(餓鬼の世界)・いかり(地獄の世界)・おろそか(畜生の世界)・実力もないのに自分を過信して思いあがる(増上慢の世界)。「自分はいいたことではない」と言いながら他人に評価してほしい(卑下慢の

これからは自分の価値判断基準でなく、お念仏の中に自分を問うて生活していきます。仏さまはそのまま救ってくださいるので、心が落ち着きます。祖父や父から伝わったお念仏を申していた姿を、私の子や孫に伝えていきます。

第四連区門徒推進員実践運動研修会に参加して

鳥取因幡組 浄徳寺 永原 初雄

令和五年九月十日～十一日に開催された研修会に、組内三か寺三名で参加させて頂きました。

「つながる」を研修テーマに、問題提起では、連研中央講師「宮本義宣」師（神奈川組高願寺・川崎市）、から「門徒推進員という生き方」を議題に、①次世代の方々に何を伝えていきたいと思っておりますか。②あらためて門徒推進員としてどのように生きていこうとお考えですか。（そして、門徒推進員の本来のあり方をもう一度思い返してみましよう。）との話し合いテーマに沿って、各班七～八名ずつ一七〇班に別れて、話し合い法座を持ちました。この法座では、進行係は決められていましたが、参加者全員が書記係というものでした。それは、各部屋に模造紙と付箋（ポストイット）が置かれ、各人一〇枚に意見を書いて模造紙に貼り、終了後似たような意見をまとめて貼り直し、話し合い法座終了後班ごとに紙を貼りだして皆で共

有するということでした。一〇枚に意見を書く難しさから、日頃の門推としての生き方を反省するとともに、会場となった山口市湯田温泉「ユウベルホテル松政」の、入り組んだ各部屋へスムーズに案内されたこと、午後六時半からの夕食懇談会での「ご無礼芝居一座」公演、おぜいでの見送り等担当教区の皆様のおもてなし姿勢に感動を覚えました。

また、二日目の全体会、まとめの法話では、浄土Ⅱ南無阿弥陀仏（お浄土からの働き、お浄土から届いている）、仏壇の処置に困っている人から寺で預かり、使いたい人に渡す。初七日・二七日などで遠隔地に住んでいる人は、最寄りの寺にお参りする。所属寺の違う親戚等と本山で合流し、念仏奉仕団（最低一〇名）で本山にお参りする。など、心に残りました。最後に、二〇二四（令和六）年は山陰教区の担当です。皆さんと心をつなぐ、「妙好人」の地へお迎えしましょう。

寄稿

新会員の声



松江組 順光寺
榎 佳子

京都での研修を終えて一年になりました。新たな学びの中で私らしい伝え方を共に学び共感していききたいです。

神門組 長楽寺
加本 薫

中央教修を受講してからは、朝夕に阿弥陀様に手を合わす日々があります。今後は、お寺の行事や法座に参加させていただきます。

神門組 長楽寺
島田 廣

妻の七回忌を終えて八十二歳一人暮らし。仕事は行商を行っています。以前は仏壇の清掃を怠り、勤行をしていない宅もございましたが、現在清掃・勤行を行う宅も増え、私も頑張りたいと思います。毎日が楽しいです。

出雲南組 専応寺
吉田 久司

仏様の前に静かに座して念仏を唱えると安心します。願望として、そうしたときを多く持ちたいと思います。

八年越しの中央教修
出雲南組 善福寺
名原 智亮（釈順忍）

私は六月三十日からの門徒推進員中央教修を受講しまし

た。門徒推進員養成連続研修を終えてから八年越しの中央教修となりました。連研修了当時、会社勤めをしており三泊四日には踏み切れず、そのうちコロナ禍となり本年となりました。東京から鹿児島までの三十一名の皆さんと貴重な体験・経験をさせて頂きました。連研の時もそうですが、話し合い法座を通して普段考えないテーマについて自分の考えや思いに気づき、また皆さんの意見や考えを聞き、さらに新たな気づきがありました。

こうしたご縁を大切にし念佛者として、阿弥陀様の願いを学び、み教えに基づいた生き方が少しでも出来ればと考えています。また、門徒の高齢化と門徒数減少の中、持続可能な護持について知恵を出し合い考えていければと思います。多くの人にお参りしてもらう為に何をすべきか、何ができるかを皆さんと考えていきたいと思っています。

寄稿

会員寄稿



コロナ禍で変わったこと

神門組 乗光寺

福 城 育 夫

新型コロナに翻弄された三年間でしたが、いろいろ反省させられることも多かったことでした。

発生当初の慌てぶりは、さながら過去経験したハンセン病患者の差別扱いに似たものがありました。病気の正体を科学的に捉え、適切な対応が望まれることを学んだはずなのに、残念にも続きます。その影響は今も続き葬儀で行われている事前焼香なるもの、最早過度の恐れから葬儀の否定に向かうのではと危惧します。

私自身、仏教を信ずるきつ

けとなったのが、葬儀における身近な人の死を考えたことだったことを思えば心配です。また葬儀の簡略化は、コロナ禍の原因ではなく、世の中の流れのきっかけとなった気がしてなりません。

われわれ門徒推進員自ら根本に立ち返り、仏教の必要性を再認識すべきだと思います。

御同朋の社会をめざして

出雲南組 善徳寺

永 見 克 久

「人権」という理念が定着し、建前として納得されてるが、私たちの社会は未だに差別が存在している。差別意識が無いと思いい込むほど、現実は見えなくなり、関係が無いとなれば無関係になる。こういう人が「差別があり続ける社会」を支えているのだ。気づけない差別がある以上、意識せずとも差別をしてしまう私と向き合っていかなければ

ならない。

「煩惱具足の凡夫」をどれだけ我が身のこととして生きてきたことか。煩惱から離れられないことは「恥ずかしい」と思う。聴聞をして「有り難い」と感じて、「恥ずかしい」という視点にはなかなか立てない。煩惱がある限り差別はなくなりないのでなく、差別して生きてしまう自分と向き合い「恥ずかしい」「申し訳ない」と慚愧すべきと気づかされた。

親鸞聖人は仏法を通して、どこまでも自身に厳しく生き抜かれました。だからこそ聴聞の中に、自らを問い続けることを忘れずにいたい。ずっと問われ続けている、その立場で生きることが差別と向き合うこと。また、私が変わってこそ差別の現実を変えていける。

一門徒としての生き様を通して「他者の苦悩を自らの苦悩として寄り添う」ことの覚悟を裏打ちしていきたい。 合掌

門徒推進員という生き方【理念】

今般、門徒推進員の具体的な役割や願いを明示するため、「門徒推進員という生き方【理念】」を作成いたしました。この内容の意図するところが広く宗門内に周知されることを願います。

【門徒推進員とは】

阿弥陀如来は、私たち生きとし生けるすべてのものをお浄土に生まれさせ仏に成らせて、本当のしあわせと安らぎを与えたいとの願いを建て、その願いを成就して、今「南無阿弥陀仏」の名号となって私に届いています。

そして、阿弥陀如来は、あらゆるいのちは、あるがまま等しく尊いことを知らせるため、お浄土を私たちのめざすべき世界と示し、はたらきつづけてくださっています。

その願いとはたらきを聞きつつお浄土をめざしてお念仏申して生き、阿弥陀如来の願いを私の願いとして生きる人を念仏者^{ともがら}といいます。その人を、親鸞聖人のみ教えを仰ぐ「門徒（同じ門下の徒）」といいます。

阿弥陀如来の願いとはたらきに出遇った私たち念仏者は、社会にはさまざまな問題があることや、私たちの教団が差別をし、戦争に協力してきた負の歴史の事実から、阿弥陀如来の願いの通りにはなっていない現実気づかされます。

それらの現実を他人事とせず、私たちの社会や教団が阿弥陀如来の願いにかなうものであるように、み教えに問い、聞き、語り、共に育ちあいながら、解決し克服する歩みが念仏者という生き方です。

「連研」を受講し終えて「中央教修」を修了して、自らの生き方の中心となるみ教えが明らかになり、阿弥陀如来のお心を私の「ものさし」（価値判断基準）とし、それぞれが自覚と主体性をもって歩み続ける念仏者を門徒推進員といいます。

【門徒推進員として】

門徒推進員は、生涯念仏者の自覚をもって寺院、家庭、職場、及び地域などで、み教えに基づいた生活（生き方）を続けます。

さらに、寺院・組・教区・特区・開教区（開教地）の門信徒・僧侶・寺族とともに、教団の運動の推進にあたります。

＜2023（令和5）年6月30日策定＞

門徒推進員という生き方【理念】〔解説文〕

今般、門徒推進員の具体的な役割や願いを明示するため、「門徒推進員という生き方【理念】」を作成いたしました。

現在「年齢を重ねて、寺院の活動に取り組むことができなくなったから、門徒推進員を続けられない」という方がおられます。

また、門徒推進員とは何なのかをご存知いただけない僧侶や門徒の方がたがおられます。

そこで、門徒推進員とはどのような存在なのかということを理解し、「連研」や「中央教修」の受講を勧める際の一助にさせていただきたいとの思いで作成したのがこの「門徒推進員という生き方【理念】」です。

私たちの教団の運動は、時代を経て名称等の変更が重ねられてきました。門徒推進員は、この【理念】に基づいて教団が進める運動に積極的に参画し、推進していく門徒をいいます。

【門徒推進員とは】

阿弥陀如来は、私たち生きとし生けるすべてのものを浄土に生まれさせ仏に成らせて、本当のしあわせと安らぎを与えたいとの願いを建て、その願いを成就して、今「南無阿弥陀仏」の名号となって私に届いています。

そして、阿弥陀如来は、あらゆるいのちは、あるがまま等しく尊いことを知らせるため、お浄土を私たちのめざすべき世界と示し、はたらきつづけてくださっています。

仏教は、仏さまに成る教えです。仏さまに成ることが目的であり、仏さまに成ることが本当のしあわせと安らぎを得ることです。浄土真宗という仏教は阿弥陀如来のひとりばたらき他力^{ひとりがら}で往生成仏させていただきますのです。

その願いとはたらきを聞きつつお浄土をめざしてお念仏申して生き、阿弥陀如来の願いを私の願いとして生きる人を念仏者といえます。その人を、親鸞聖人のみ教えを仰ぐ「門徒（同じ門下の徒）」といえます。

『浄土真宗辞典』には、門徒とは「同じ門下のともがら。同じ教えを奉ずる同朋、または個人のこと。」「本願寺派では、宗法などに規定があり、僧侶及び寺族以外の者で、宗門の目的を遵奉し、本山に帰向し、寺院に所属して、その寺院の門徒名簿に登録された者をいう。」と記されています。

この「門徒推進員という生き方【理念】」においては、法規に規定される用語としてではなく「門徒」の内実を重視してこのような表記にいたしました。

阿弥陀如来の願いとはたらきに出遇った私たち念仏

者は、社会にはさまざまな問題があることや、私たちの教団が差別をし、戦争に協力してきた負の歴史の事実から、阿弥陀如来の願いの通りにはなっていない現実気づかされます。

それらの現実を他人事とせず、私たちの社会や教団が阿弥陀如来の願いにかなうものであるように、み教えに問い、聞き、語り、共に育ちあいながら、解決し克服する歩みが念仏者という生き方です。

「連研」を受講し終えてを「中央教修」を修了して、自らの生き方の中心となるをみ教えが明らかになり、阿弥陀如来のお心を私の「ものさし」（価値判断基準）とし、それぞれが自覚と主体性をもって歩み続ける念仏者を門徒推進員といえます。

4段落目以降は、多方面から発せられる、門徒と門徒推進員の違いは何なのかという問いに応える意味合いがあります。本来ならば違いが無いのが理想ですが、「連研」や「中央教修」を経て、単に仏教用語を学び、教学の知識を身につけることにとどまらず、人生の中で「み教えに問い、聞き、歩む」日常生活を送っていただきたいという願いです。それが「み教えを依りどころに生きる」ということでしょう。

【門徒推進員として】

門徒推進員は、生涯念仏者の自覚をもって寺院、家庭、職場、及び地域などで、み教えに基づいた生活（生き方）を続けます。

さらに、寺院・組・教区・特区組・開教区（開教地）・の門信徒・僧侶・寺族とともに、教団の運動の推進にあたります。

「中央教修」での「門徒推進員とは」の単位では、「資格ではなく自覚」ということがいわれてきました。しかし「自覚」といいながらも何らかの「活動」をしなければならないという意識を与えてきてしまいました。その結果「活動」ができなくなると門徒推進員を辞めなくなる方も多く見られました。「自覚」を持って自発的に現れてくる「活動」は尊いことですが、必ずしも「活動」が伴わなければならないわけではありません。

お念仏申ささせていただくその姿が周りの人々に伝わるこそ門徒推進員としての生き方として大切な役割でありましょう。

この「門徒推進員という生き方【理念】」では、それぞれの日常生活で、それぞれの生涯を貫くような「門徒推進員という生き方」があることを明示する意図があります。

<2023(令和5)年6月30日策定>

役 員 名 簿

(2022年4月1日～2024年3月31日)

役 職	所属組	所属寺	名 前
会 長	大 田 東	西楽寺	齊藤 寛*
副 会 長	神 門	願楽寺	今岡 昌紀*
事 務 局 会 計 担 当	出 雲	東林寺	岸本 邦夫*
理 事	鳥取因幡	光輪寺	乾 和明
理 事	鳥取因幡	願正寺	池原 宏
理 事	鳥取伯耆	香寶寺	西山 賢一
理 事	松 江	明宗寺	福原 一字*
理 事	出 雲	通傳寺	日野 邦雄

役 職	所属組	所属寺	名 前
理 事	神 門	正善寺	本田 和政
理 事	出 雲 南	福泉坊	石飛 安弘
理 事	飯 南	一念寺	和田 幹雄
理 事	江 津	光善寺	長井 正樹
理 事	浜 田	正念寺	鎌原ヤシエ
監 事	大 田 東	常見寺	大迫五十鈴
監 事	鳥取伯耆	勝福寺	岡崎 岩男

*印：ともしび編集委員

2024（令和6）年度 門徒推進員中央教修 開催期日

回 数	期 日	備 考	定員
第285回	2024（令和6）年5月16日（木）～5月19日（日）	本願寺開催	40名
第286回	2024（令和6）年7月19日（金）～7月22日（月）	本願寺開催	40名
第287回	2024（令和6）年9月14日（土）～9月16日（月） 2024（令和6）年10月12日（土）～10月13日（日）	リモート開催 本願寺開催	20名

予備日	2025（令和7）年1月24日（金）～1月27日（月）	本願寺開催 （リモートの1泊教修含む）
	2025（令和7）年2月7日（金）～2月10日（月）	本願寺開催 （リモートの1泊教修含む）

※予備日は、全ての「中央教修」について、中止・延期した場合の振り替え日として設定

編輯後記

今年度より、新型コロナウイルス感染症のため、発行を中止していた機関紙「ともしび」が帰ってきました。皆さまお待たせしてしまい申し訳ございません。また例年通り発行してきたいと思いますので、よろしく願います。また前担当に代わり、新担当Kが門推を引っ張っていきますのでよろしく願います。

研修会も規模を縮小していましたが、再開し始めました。開催いたしますと「久しぶり」と他の組の人たちと交流される人をよく見かけます。事務局として、以前のように皆さまと研修会等を通して交流できる環境をつくっていきたい改めて感じました。

来年度は、山陰教区にて第4連区の実践運動研修会がございます。多くのご参加お待ちしております。当日、皆さまとお会いできるのを楽しみにしています。

【担当】

【担当者】